

北海道白糠高等学校

課程 全日 制
学科 普通 科
生徒数 262 名

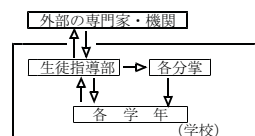
1 取組の特徴

- 学校への適応段階に応じた生徒のコミュニケーションスキル育成のトレーニングを計画的に実施するとともに、トレーニングの成果を生かす機会を効果的に設けることができるようにする。
- 教職員の生徒理解に向けた研修を計画的に実施し、教職員が生徒理解や指導力を向上させるようにする。

2 取組のねらい

- 一昨年度より、人間関係調整能力や自己表現力の育成に主眼を置いた集団研修や講演会を実施し、生徒のコミュニケーション能力に徐々に効果が見られてきた。
- 今年度の一年生においても、中途退学者のさらなる減少に向け、生徒のコミュニケーションスキルの向上を図る。

<組織図>



3 取組の経過

- | | |
|--|--|
| <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学前の中学校訪問による生徒情報の交換 コミュニケーションスキル育成トレーニング 個別面談、家庭訪問等による生徒状況や家庭環境の把握 <p>5～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に係る情報の共有化と個別指導 個別面談、家庭連絡や訪問の実施 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事(学校祭)による生徒の集団づくり <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習及び生活における少人数、個別指導 元気アップ研修講座 | <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> Q-Uテストの実施 学校行事(体育祭)による集団づくり <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> Q-Uテスト結果を基に生徒状況の分析 個別面談の実施 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションスキル向上のための演習 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒理解と指導力向上のための研修 アンケートや面談等による生徒状況把握 Q-Uテストの実施 |
|--|--|

4 取組の内容

(1) 宿泊研修における構成的グループエンカウンターの実施

- 対象 1学年
- ねらい 入学当初の時期に、生徒の相互理解と仲間づくりを推進し、クラス内の良好な人間関係の構築を図る。
- 内容 宿泊研修の事前指導、実施、事後指導のなかで、グループエンカウンターを実施した。
- 成果 実施後、生徒の交友関係が広がり、クラスや学年への帰属意識の向上が見られるなど、生徒の相互理解や集団づくりに効果があった。



室内キャンプファイヤー

4 取組の内容

(2) 「元気アップ研修講座」の実施

- 対象 1学年
- ねらい 生徒の自己肯定感を向上させ、積極的に学校生活を送ることを意識させる。
- 内容 笑華尊塾代表 塩谷 隆治氏を講師に、生徒向けのコミュニケーションスキル向上の演習と講演を実施した。
- 成果 明るくテンポの良い講演と演習が実施され、生徒の相互理解を深めることができた。



演習の様子

(3) Q-U (学級満足度) 調査

- 対象 1学年
- 分析
 - 学級生活満足度が全国よりも低く、「HRに居場所があり意欲を持っているもの」が比較的少ない集団であるが明らかになった。
 - 全国平均に比べ、リレーション、ルール形成がともに低い集団である。
 - 生活状況を把握し、場合に応じて早急に対応する必要がある生徒がいる。

5 次年度に向けて

(1) 成果

年度当初は、学習面や生活面で自信がもてない生徒が多く、落ち着いた学校生活を送ることができなかったが、集団づくりの取組に伴い、生徒が学校に居場所を見つけ、授業や学校行事にも積極的に取り組む姿勢が見られ、自信をもって行動できる生徒が増えてきた。

(2) 課題

- 問題を抱えて入学してくる生徒に対して早期の段階で、HR、学年、学校への帰属意識を向上させ、集団生活への適応を図る方策について検討すること。
- 教職員の生徒理解や指導力の向上を図り、教職員が主体となり、生徒のコミュニケーション能力を向上させる取組を継続すること。
- 校内外におけるきめ細かな生活指導を適切に推進するために、関係中学校や外部機関との一層の連携・協働を図る方策を検討すること。

(3) 次年度に向けて

- 早期の段階での生徒の相互理解と集団づくりを図る宿泊研修等の活動をさらに充実させるとともに、授業、HR活動、部活動等で、生徒が意欲的に活動できる場を提供する。
- 本プログラムを通して得た成果を活用し、教職員の指導力の向上を図るとともに、アセスやQ-Uなどを活用して個々の生徒の課題を把握し、HRや学年における集団づくりの改善に努める。
- 中学校や外部機関との連絡をより一層緊密にし、生徒の状況を把握するとともに、行動連携を図る体制づくりに努める。